

「令和6年度 第2回高知県教科用図書選定審議会」

開催日時：令和6年6月4日（火） 9：30～16：30

開催場所：共済会館 3階 大ホール「桜」

出席者：

（委員）

柳林信彦会長、小川真悟副会長、宮崎史和委員、筋野健治委員、中越英二委員
切詰美穂委員、正岡佳代委員、濱口君代委員、竹内信人委員、竹内清貴委員
久寿久美子委員、久保良高委員、松尾晋次委員、杉元美栄委員、山中由香委員
※欠席委員：高橋弘江委員、三木守委員、鎌倉仁委員、黒瀬渡委員、仙頭竜太委員

（事務局）

今城純子教育次長、濱川智明教育次長

小中学校課：蛭子課長、井上企画監、伊吹課長補佐、池嶋チーフ

河野指導主事、市川指導主事、濱田指導主事、安岡指導主事

高橋指導主事、松山指導主事、中上指導主事、中谷指導主事

山地指導主事、飯田指導主事、松村指導主事

教育センター：濱田指導主事、駄場指導主事、鈴木指導主事、森田指導主事

保健体育課：田中指導主事

特別教育支援課：板橋課長、谷澤課長補佐、吉井チーフ、池指導主事

1. 開会

審議会委員の変更について。

白川委員が教育長の任期満了となったため、同じ香美・香南採択地区から香南市の三木守教育長が審議会委員となった。

会議冒頭に事務局より会議を非公開とする提案があり、承認された。

（非公開とする理由…審議会等の会議の公開に関する指針、3 公開基準（2））

2. 高知県教科用図書選定審議会 会長挨拶

3. 選定資料案の報告、質疑、審議

事務局より、5つのグループに分かれて選定資料案についての報告があり、その後、質疑、審議を行った。報告に係る概要は以下のとおり。

（1）総括、国語、書写

●総括

- ・調査期間は、5月8日～15日。調査員は、45名。
- ・調査対象は、142点。

- ・第1回高知県教科用図書選定審議会で頂いた御意見を踏まえて、調査を実施。

①個票

「(1)編集の方針、(2)内容」で構成。「(1) 編集の方針」は、発行者が教科用図書を編集する際の編集の方針や編集の観点に見られる特徴、留意点を示している。「(2) 内容」は、第1回の審議会で承認いただいた調査項目の観点に対応して、それぞれの教科書における特徴のある点を記載している。

②補助資料

種目ごとに「1 学習内容、2 教科の特徴、3 分量」について、学習指導要領や解説の内容を踏まえながら項目を設定し、発行者ごと、学年ごとに補助資料を作成。総括票内の網掛けをしている項目については、発行者ごとに詳細な内容を記載している。

●国語

- ・4者の調査内容について説明。

●書写

- ・4者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員)

- ・新たに国の検定に通った教科書会社があるか。
- ・大日本図書の採択については、どのような扱いか。

(事務局)

- ・令和書籍の歴史の教科書が、新たに検定を通った。
- ・「令和7年度使用教科書の採択事務処理について」の中で、中学校用教科書の採択について、「中学校用教科書目録（令和7年度使用）に掲載されているものの中から採択すること」と示されている。大日本図書も目録に掲載されているので、前回の検定を通った教科書を採択できることとなっている。

(委員)

- ・国語の情報活用能力の育成について、各者特徴的な教材が示されているが、学年ごとに内容が違うのか、3学年で同じものを使用しているのか。

(事務局)

- ・ある教科書会社については、1年生では根拠と主張の関係性、2年生では根拠が適切か、3年生では情報の信頼性などと、発達段階に応じた工夫がなされている。思考ツールに関しては、学年に応じたものを示している教科書会社もあれば、全学年を示したうえで、教材によって使い分けができるようにしている教科書会社もある。

(委員)

- ・書写の三省堂の教科書に、「教科書に書き込みながら練習する」とあるが、書き込みができるはがきは実物大か。

(事務局)

- ・実物と同じ大きさであると確認した。

(委員)

- ・書写の総括票に「発展的内容に関する資料等」とあるが、具体的にはどういった内容か。

(事務局)

- ・高等学校の古典につながる内容が示されている。

(会長)

- ・「発展的内容に関する資料等」については、総括票の説明を高等学校に重きをおいた表現に検討してはどうか。

(事務局)

- ・検討する。

(2) 社会

●地理的分野

- ・4者の調査内容について説明。

●歴史的分野

- ・9者の調査内容について説明。

●公民的分野

- ・6者の調査内容について説明。

●地図

- ・2者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員)

- ・「課題解決」「問題解決」という表現がある。今回の調査では、「課題解決」という表現が使われているが、学習指導要領ではどのように示されているか。

(事務局)

- ・小学校では「問題」、中学校では「課題」と表現されている。今回は、学習指導要領にあわせて、「課題解決」という表現にしている。

(委員)

- ・「主体的に学習に取り組むための工夫」について、課題解決的な学習を視点とした理由は何か。

(事務局)

- ・課題解決的な学習を進めていくためには、自分自身の問いが必要である。課題解決的な学

習があって、主体的に取り組めると考えて調査を行った。

(委員)

- ・「教科等横断的な学習の充実のための工夫」について、具体的な教科名が示されているところと「他教科」と示されているところがある。「他教科」と示しているところは、教科書の中で具体の教科が指定されていないということか。

(事務局)

- ・教科書会社によって違いがあり、明確に他教科との関連を示しているものもあれば、そうでないものもある。

(委員)

- ・「問い」を作るプロセスから載せている教科書会社はあるか。

(事務局)

- ・単元の初めに、単元を見通す問いが示されているところが多いが、単元の初めに、関連する写真を掲載し、自分たちで問いを作るという流れを示している教科書会社もある。

(委員)

- ・個票のエには、SDGs が示されているが、全てに関係していると考えてよいか。

(事務局)

- ・よい。

(委員)

- ・二次元コードのリンク先は、どのようになっているか。

(事務局)

- ・調査の対象ではないので、すべてを調べているわけではないが、復習に活用できる資料や、絵巻物の解説動画などが見られた。

(委員)

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、スキルアップマークや学び合いマークなどが掲載されている教科書が多い。このようなマークが使われている割合はどれだけか。

(事務局)

- ・割合は出していないが、多くの会社で使われている。

(委員)

- ・地図の総括票、「1 学習内容」の「その他」には、どのような内容が含まれるか。

(事務局)

- ・学習内容に示している「地形・気候・国土利用」「資源・産業・貿易」「人口・交通」「生活・文化・歴史」以外の内容が含まれている。具体的には、ハザードマップといった、防災に関わるもの等が含まれている。

(委員)

- ・「グラフ・写真・図等の分類」について東京書籍と帝国書院で数に差があるのはどうか。

(事務局)

- ・掲載されている個数を全てカウントしている。帝国書院は、1つの資料の下に関連するグラフ等が掲載されていることが多いため、数字の違いが生じている。

(3) 音楽、美術、保健体育、技術・家庭

●音楽

- ・2者の調査内容について説明。

●美術

- ・3者の調査内容について説明。

●保健体育

- ・4者の調査内容について説明。

●技術・家庭（技術分野）

- ・3者の調査内容について説明。

●技術・家庭（家庭分野）

- ・3者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員)

- ・音楽の個票、「情報活用能力の育成を図るための工夫」に、著作権等についての記述があるところとないところがある。この記述をもって、有無を判断してよいか。
- ・デジタルコンテンツでは、どのようなことができるようになっているのか。

(事務局)

- ・一者は、著作権について3年間を通して内容が掲載されているということが特徴的であるため記載している。もう一者は著作権の記載はあるが、3年間を通した指導という点では記載がない。
- ・例えば、演奏で使用する楽器ごとに音色を確認することができるものがある。イヤホン等を使うことで、各自が聞きたいものを聞くことができる。

(会長)

- ・著作権について、選定資料の記載の有無をもって著作権について判断する場合もあると考えられる。3年間を通して段階的に指導するようになっている点が特徴的であることが分かるような記載をすれば、他の会社との違いも明確になる。

(事務局)

- ・そのように修正する。

(委員)

- ・美術について、開隆堂の説明に「学びの資料」とあったが、個票には記載されていない。このような具体的な記述があると分かりやすい。
- ・総括票について。光村図書の「鑑賞」は、他者より多いが、この点の特徴について具体的に知りたい。

(事務局)

- ・「学びの資料」については、具体的な記述を入れたい。
- ・光村図書は「鑑賞」に力を入れており、2・3年生に日本の絵画について15ページで特集を組んでいる。

(委員)

- ・保健体育の補助資料（教科の特徴）には、インターネットによるトラブルに関する記載が一者にはあるが、他にはない。取扱がないのか。
- ・一者のみ動画やシミュレーションの数が示されている。

(事務局)

- ・全ての会社においてインターネット等のトラブルに関する項目が入っている。例えば、1年生の休養と睡眠や、性に関するところでも扱っている。
- ・修正する。

(会長)

- ・特定事項に関しては、全者に共通して書いてあるのか、あるいは特徴的なものなのかが、分かるように全体の資料を工夫するとよい。

(委員)

- ・技術分野に関して、教育図書の別冊スキルアシストは、教科書として取り扱うのか。

(事務局)

- ・別冊ではあるが、目録に示されているので教科書として扱う。

(委員)

- ・スキルアシストには、学習内容について見返すことができる資料が豊富にあるということなので、総括票に括弧で示した方がよい。

(委員)

- ・開隆堂の技術では「自律」と記載し、家庭科では「自立」と記載しているのは、意図的か。

(事務局)

- ・どのように技術を使って生活をより良くしていくか、何を大事にして生きていくべきかを考えるという点から、技術では「律」を使用している。

(4) 数学、理科、英語、道徳

●数学

- ・ 7 者の調査内容について説明。

●理科

- ・ 5 者の調査内容について説明。

●英語

- ・ 6 者の調査内容について説明。

●道徳

- ・ 7 者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員)

- ・ 数学はデジタルコンテンツが増えたことが分かった。東京書籍のデジタルコンテンツについて、自分の考えを表現・共有する内容のものがあるが、他者にはないのか。
- ・ 練習問題については、子供たちが自ら選択できるようになっているのか。

(事務局)

- ・ 自分の考えを表現・共有する内容については、示されている教科書もあれば、そうでない教科書もある。
- ・ コンテンツ自体は調査対象ではないため明記していないが、子供自身が自分のつまずきに応じて解説動画を視聴し、実際に問題を解くといったものが多くなっていた。

(委員)

- ・ 東京書籍に「他教科の教科書紙面が見られる」とあるが、東京書籍の教科書に紐付いているのか。

(事務局)

- ・ 東京書籍の他教科のページに飛ぶリンクになっている。

(委員)

- ・ 英語は6者だが、高知県の小学校では、英語の教科書は何者が採択されているか。
- ・ 総括票の「読むこと」で開隆堂と教育出版には差があるが、そのことについて具体的な説明を聞きたい。

(事務局)

- ・ 県内の小学校では、東京書籍、光村図書出版、三省堂、開隆堂出版が採択されている。
- ・ 「読むこと」については、教育出版は一つが何ページにもわたる読み物資料を多く扱っている。それに対して開隆堂の場合は短いコラムのようなものを数多く取り扱っている。

(委員)

- ・ 特徴的なものであれば、それが分かるように書くと良いのではないか。

(事務局)

- ・開隆堂はコラムが多いという特徴があるので、検討したい。

(委員)

- ・道徳について、高知県に関する教材が教科書に載るのは素晴らしいこと。どういう場面なのか具体的に教えていただきたい。
- ・コラムが非常に多く、ウェルビーイングが教科書の中にそれぞれ出ているように思うが、各教科書で感じられたことがあるか。

(事務局)

- ・高知県に関する教材が扱われている訳ではない。高知県の写真や人物等を取り上げているページを示している。
- ・コラムは日常生活を取り上げたより生徒に近い話題が多くなっている。また、役割演技ができるコラムや、道徳教育とつなげられるコラム、特別活動や総合的な学習の時間とつなげられるコラムを多く取り上げている。さらに、多様性を取り上げたものが非常に多かった。自分と違った考え、スタイル等を受け入れるという教材が、今回新しく入ってきたと感じている。

(5) 一般図書

●一般図書・総括

- ・調査員 11 名
- ・特別支援学校、特別支援学級に在籍するお子さんの中で検定教科書を使用することが難しい場合は絵本などの一般図書を教科書として使用することが法令により認められている。一般図書についても、検定教科書と同様に調査、審議を行い、あらかじめご意見をお伺いすることが義務付けられている。
- ・調査対象は 10 冊。
- ・本県においては、従前から選定審議会において調査、審議を積み重ねた一般図書が点字図書と合わせて 589 冊。この 589 冊から絶版となっている一般図書 1 冊を削除し、588 冊に今回の 10 冊を加えると 598 冊。

●一般図書

- ・選定資料には、図書名、発行者、著作名、図書の大きさ、ページ数、定価などを記載している。
- ・10 冊の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員)

- ・SDGs に関する本が上がってきた背景を教えていただきたい。

- ・SDGsには17の目標があるが、それに対応したシリーズ本はあるか。

(事務局)

- ・SDGsについては、特別支援学校でも取組を強化していく流れがある。また、職業家庭の家庭分野の内容にも環境に配慮した生活をするという部分がある。そういったことに対応する教科書が必要になってきたという背景がある。
- ・この図書には同様のシリーズはないが、今後いろいろな分野の本を積み上げていきたい。

(委員)

- ・今回の選定図書については、少し発達段階が高めのものが集まっていると感じる。傾向や、昨年度との違いを教えてください。

(事務局)

- ・段階が高めの本が今回はやはり多かった。道徳的な内容を扱った図書、仕掛けを操作して体験的に学習ができる図書、自分が実行したり、思考したりしたことを書き込むことができる図書がある。

(委員)

- ・「さわって学べる図形図鑑」は、算数の用語が示されていることを記載しておくこと、現場の教員が、この本使ってみようかなという気持ちになるのではないかな。
- ・9番目、10番目の図書については、想定される場面に自立活動を記載すると良いのでは。

(事務局)

- ・算数の用語については、記載するように検討する。
- ・自立活動については、自立活動自体は無償給与の対象になっていないため、記載は難しい。

4. 高知県教育委員会への答申

高知県教育委員会への答申について承認された後、会長より高知県教育委員会に答申を手交しました。

5. 高知県教育委員会挨拶

6. 閉会